

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について進捗状況を点検し、組合及び構成市等と協議を進める。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について、進捗状況を点検し組合及び構成市等と協議を進める。
②①に基づく取組み結果	協定の履行について、進捗状況を点検し、組合及び構成市と協議を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設を受け入れている地域の環境向上に向けた取り組みについて、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合で廃棄物処理施設周辺整備基本計画及び実施計画が策定された。周辺整備事業を早期に実現し、環境向上を図ることが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」等の維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽維持管理等に負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	余熱利用還元施設利用者数	333	319	318	千人	業務取得
	ii	資源化率	19.6	17.8	18.8	%	業務取得
	iii	最終処分率	8.2	8.1	8.1	%	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	126,874	132,430	金額(千円)	内容	144,563		
国支出金(千円)			132,430	周辺整備費			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	126,874	132,430			144,563		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	廃棄物処理施設周辺整備計画については、構成市等との調整を図りながら着実に進めていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	廃棄物処理施設周辺整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	○
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に基づき、構成市として組合に協力する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺整備実施計画に基づき、構成市として組合に協力する。 また、地元自治会との協定に基づき市道整備する柏市に対し負担金を支出する。
②①に基づく取組み結果	廃棄物処理施設周辺整備実施計画に係る協議を構成市及び組合と行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が実施する廃棄物処理施設周辺整備事業に係る負担金を支払う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設が立地する地域の環境向上に向けた取り組みである周辺整備事業は、これまで進捗が遅れてきた経緯があるため、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合の新たな廃棄物処理施設周辺整備基本計画については、着実に実行していくことが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が行う廃棄物処理施設周辺整備事業に対する負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	しらさぎごみ搬入量	30,779	30,417	30,292	t	業務取得
	ii	し尿浄化槽汚泥搬入量	19,333	18,941	18,694	t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	9,241	3,792	金額(千円)	内容	33,822		
国支出金(千円)			3,792	周辺整備事業費			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)					25,200		
一般財源(千円)	9,241	3,792			8,622		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	事業の進捗にあたっては、実施計画に基づく着実な進捗が求められているため年度間の調整が必要となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	補助制度の活用など、効率的な実施を検討していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	負担金	3,792	3,792	当初	3,792	3,792	H29からの繰越
				H29→30繰越			現年分
③達成状況	完了						
④未完了・非着手の理由							
令和元年度への繰越額(単位:千円)							0

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	生ごみ処理容器等購入補助事業に関しては、昨年度から引き続き広報・ごみアプリでの案内を行う。また、買い物袋の持参推進運動や有価物回収も含めて効果的な広報の記事を研究する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	生ごみ処理容器等購入補助事業に関しては、昨年度から引き続き広報・ごみアプリでの案内を行う外、自治会の班回覧やイベントでのチラシの配布等方法や回数を増やしていく。
②①に基づく取組み結果	本年度は、過去の利用者に生ごみ処理機の利用状況についてアンケートを実施し、周知の方法を広報以外に、自治会の班回覧やイベントでのチラシの配布等周知方法を増やす形をとった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量を目指し、循環型社会
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や買い物袋の持参推進運動協議会の負担金、生ごみ処理容器等購入費補助金の支払いを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の補助事業について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA(出す側)と有価物資源組合(回収側)による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 有価物回収量	1,011	901	839	t	業務取得
	ii 買い物袋の持参推進運動交換件数	12,455	12,499	11,433	件	業務取得
	iii 生ごみ処理容器補助件数	16	15	27	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	12,088	11,301	金額(千円)	内容	12,494	
	国支出金(千円)		10,344	有価物回収運動奨		
	県支出金(千円)		181	生ごみ処理容器助		
	市債その他(千円)		776	買い物袋持参推進		
	一般財源(千円)	12,088	11,301		12,494	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を行う必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	クリーンセンターしらさぎの延命化計画について、組合と構成市と協議を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	「施設長寿命化総合計画」に基づき、組合、構成市と共に事業が進むよう協議・調整を進める。
②①に基づく取り組み結果	協議・調整の結果、施設長寿命化総合計画を策定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減量を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するため、建設施設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取り組みが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	ごみ処理費用(ごみ処理費・共同化処理費及びごみ処理施設償還)に係る負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	再資源化量	6,105	5,427	5,751	t	業務取得
	ii	最終処分量	2,547	2,467	2,492	t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,226,554	1,293,570	金額(千円)	内容	1,237,669		
国支出金(千円)			612,043	ごみ処理費			
県支出金(千円)			593,110	共同化処理費			
市債その他(千円)			88,417	ごみ処理施設償還			
一般財源(千円)	1,226,554	1,293,570			1,237,669		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	「施設長寿命化総合計画」に基づき老朽化した施設の延命化に向けた作業の進捗を図る必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	老朽化した施設の安定稼働を図るための的確な維持管理、運営を行うとともに延命化に伴う調整等を進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	令和元年度への繰越額(単位:千円)				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	し尿処理事務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	4	2	3	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	合併浄化槽設置補助制度について周知PRを図り、更なる設置に向けて調査・研究をする。また、し尿処理手数料の徴収率が低下傾向であるため、その向上のため、徴収の強化を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	汲取り便槽及び浄化槽の転換数の増加を図るため、対象者に対して更なるPR活動等を行い当該制度の利用促進を図る。
②①に基づく取り組み結果	補助制度の利用促進のためお知らせ等を行ったが、補助制度の利用者は4件のみであった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①汲取り便槽を使用している市民等 ②下水道事業認可区域を除く市域に合併浄化槽を設置しようとする者	意図(対象をどうするのか)	①し尿による水質汚濁の防止及び生活環境の保全 ②家庭から出る生活雑排水の水質汚濁物質の軽減
②事務事業の概要	し尿収集運搬及びし尿処理手数料徴収を行う。また、水質汚濁を防止するため合併浄化槽の設置を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	長期的には、公共下水道の整備により汲取り世帯及び単独浄化槽世帯の減少が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	合併処理浄化槽の転換設置に対して、設置費の一部について補助を行った。(4件)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i し尿収集・運搬率	100	100	100	%	業務取得
	ii し尿処理手数料徴収率	97.6	97.4	98.0	%	業務取得
	iii 補助金利用設置合併浄化槽基数	20	20	4	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	94,122	84,775	金額(千円)	内容	95,125	
国支出金(千円)	2,958	1,064	81,169	し尿収集・運搬等	3,030	
県支出金(千円)	4,642	966	2,538	浄化槽設置補助	4,710	
市債その他(千円)	13,509	12,812			11,910	
一般財源(千円)	73,013	69,933			75,475	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	汲取り便槽及び単独浄化槽から合併浄化槽への転換の件数が伸び悩んでいる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	合併浄化槽設置補助事業をより効果的な補助制度とするため、制度の周知等について更なる精査検証を行う。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由		流用・充当			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(し尿処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	3	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	アクアセンターあじさいの修繕計画について、環境衛生組合及び構成市と調査・協議を行ったうえで作成する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	アクアセンターあじさいの修繕計画について、環境衛生組合及び構成市との調整・協議を引き続き行っていく。
②①に基づく取り組み結果	焼却施設の延命化等の計画との整合性を図る必要があるため、あじさいの修繕計画の調査協議について引き続き協議を継続する必要がある。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①公共下水道を使用していない者 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	し尿及び浄化槽汚泥の適正処理
②事務事業の概要	構成団体(柏市沼南地区・白井市・鎌ヶ谷市)の地区内で排出されたし尿、浄化槽汚泥を適正処理するために施設維持管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。長期的に公共下水道供用開始区域の拡大により処理量の減少が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	し尿処理費用に係る負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 処理率	100	100	100	%	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	179,884	172,212	金額(千円)	内容	211,795	
国支出金(千円)			38,009	管理費		
県支出金(千円)			134,203	し尿処理費		
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	179,884	172,212			211,795	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	脱水汚泥焼却炉等、各設備の老朽化が進んでいるため必要な修繕計画を検討していく。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	平成30年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H29からの繰越
		H29⇒30繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	令和元年度への繰越額(単位:千円)				